

平成25年9月13日

鳥取県生物学会会長 鶴崎 展巨

NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部支部長 福田 紀生

鳥取自然保護の会会長 浜辺 正篤

鳥取地学会会長 星見 清晴

自然と親しむ会会長 清末 忠人

日本自然保護協会自然観察指導員鳥取連絡会会長 清末 幸久

鳥取昆虫同好会会長 國本 洸紀

倉吉野鳥の会会長 國本 洸紀

山陰むしの会会長 淀江 賢一郎

レッドデータブックとっとり2012執筆担当者一同

代表 鶴崎 展巨・永松 大

日本鱗翅学会中国支部支部長 田村 昭夫

日本昆虫学会自然保護委員会委員長 石井 実

様

鳥取県知事 平井 伸治



湖山川水門開放による湖山池の高塩分化事業の見直しの要望書
について（回答）

平成25年2月19日付けで提出されたこのことについて、下記のとおり回答します。
（担当）水・大気環境課水環境保全室 小池 電話（0857-26-7870）

記

（1）2012年（平成24年）3月から実施されている鳥取市湖山池の汽水化事業の見直しを至急検討すること。

（回答）

汽水化事業は、湖山池への塩分導入を行うことで、劣化しつつあった自然環境を再生し、それによるアオコやヒシの悪臭防止や景観改善及び漁業資源維持増殖といった県民生活安定等を図ることとして、湖山池会議において総合的に判断し決定され進めてきているものです。

現在、汽水湖化によりヒシやアオコが発生しない状況や悪臭が抑制されていることから、当面アオコやヒシの発生状況にも注視し、生態系のモニタリングなどを強化しながら、適切な塩分管理に努めていきます。

なお、今後ともモニタリング委員会や湖山池将来ビジョン推進委員会の意見を踏まえながら、湖山池会議の場で十分に議論を尽くして進めていく所存です。

(2) 湖山池の水質浄化については、

a) 周囲からの湖山池への有機物の流入負荷の軽減

(回答)

湖山池将来ビジョン推進計画（第3期湖山池水質管理計画）において、水質改善のために実施すべき事項として「流入負荷の軽減」を掲げており、下水道整備等の生活排水対策、事業場からの排水対策及び農業活動、森林、市街地等からの面源系負荷の削減対策を進めていくことにしています。

b) ヒシ刈り取り船の導入

(回答)

ヒシ刈り取り船については平成14年度に導入し、これまで継続してヒシ除去を実施してきたところです。しかしながら、その後に繁茂範囲が拡大し、ヒシ刈り取り船での対応が困難な状況となるなど、外部への委託の方法でヒシ処分を行っていたところです。

c) 湖山川水門の、現在の上から下に閉めきる方式から、下から上に持ち上げる方式への改造（これにより濃度の濃い海水の浸入の阻止が可能）

(回答)

湖山池将来ビジョンに掲げる塩分濃度を達成するため、今後ともきめ細やかな水門操作を行うこととします。

なお、湖山水門は老朽化が進んでおり、大規模な修繕等を行う場合は、海水の流入調整がより容易にできるような施設への改修等についても検討します。

d) 湖山川の河口の千代川との直結、 など塩分導入以外の方策の検討を始めること。

(回答)

昭和58年に完了した千代川の河口付け替えは、「重要港湾鳥取港の整備」と同時に、湖山池を治水的に切り離すことにより、千代川流域の「洪水対策」のみならず、湖山川流域への「背水の解消」と洪水後や高潮時の「海水の逆流対策」の目的で改修したものであり、往年の宿望を果たし大きな効果を発揮しています。従って、湖山川の河口を再度、当時と同じように千代川へ接続することについては、沿川住民を巻き込んだ慎重な議論が必要です。

(3) 湖山池会議で、カラスガイなどのレッドリスト掲載種の保護・生物多様性保全の観点を含めて再検討を行うこと。県は湖山池会議に対してそのように指導すること。

(回答)

現在の汽水湖化への取組は、湖山池会議で民意を集約して水門開放による塩分導入を検討し、生態系の問題については専門家の助言を頂きながら取り組んできたものです。

残念ながらこれまで生息していたイシガイ、カラスガイ等の希少な淡水二枚貝やハ

ス・ヒメガマ等の水生植物の一部は激減してしまいましたが、幸いなことに周辺の水域ではこれら淡水性の動植物が少数ながら確認されています。

今後、これらの生息状況の調査等を重ねるとともに、各種モニタリングを強化し、湖山池環境モニタリング委員会の助言や意見を聴きながら湖山池会議の場で十分議論して保護・保全に取り組んでいくことにしています。

(問題点の個別の説明)

- 1) 湖山池の淡水性の絶滅危惧種(レッドデータブック掲載種)を絶滅させる
- 2) 鳥取県特定希少野生動植物のカラスガイの絶滅
- 3) 湖山池ならびに鳥取県全体の生物多様性の減少を招く
- 4) 塩分の変化という非常に大きな生態系の変化をとまなう事業であるにもかかわらず、何の事前調査も環境アセスメントもやっていない(「鳥取県環境影響評価条例」ならびに「環境影響評価法」違反)
- 5) 環境審議会の軽視
- 6) 県内の動植物の専門家の意見の無視

(回答)

湖山池では、ヒシやアオコが大発生する生態系の劣化や悪臭など生活環境も劣悪な状態となっていました。これらをなんとか改善したいという思いから、鳥取市と県で設置した湖山池会議により、ヒシやアオコの生息を阻害するための汽水湖化を検討し、その実施にあたっては、専門家で構成される湖山池水質予測に係る技術検討委員会や湖山池水質予測に係る生態系に関する検討委員会を設置して、水質予測や植物・魚介類等の生態系要素の変動予測を行うとともに、住民アンケートの実施や農業者、漁業者の皆様とも議論を重ねたうえ、公平性・透明性を確保して方針決定し、県環境審議会等へも経過報告を行ってきました。

そして、汽水湖化によって生息域が限定されるなど影響を受けるとされた特定希少野生動植物であるカラスガイやハスなどについては、保護措置をとることとして、汽水湖化に踏み切ったものです。

カラスガイは過去に生息していた地点の湖内生息調査を実施し、生息個体が発見された場所における全生息個体(26個体)を保護して、流入河川や河口部分に移植して対応したものの、不幸にも死滅しましたが、周辺の水域で生息していることが確認されており、これらを保護・保全していくこととしています。

以上のように、この度の汽水湖化は、決して生態系を無視して実施したものではなく専門家の助言を頂きながら取り組んできたもので、今後の対応についても、各種モニタリングを強化するとともに、昨年9月に設置した湖山池環境モニタリング委員会、3月に設置した湖山池将来ビジョン推進委員会の助言や意見を聴きながら湖山池会議の場で十分議論し取り組んでいく所存です。

7) 鳥取県民・鳥取市民に正しい知識・情報を与えていない

(回答)

東郷池程度の塩分濃度は湖山池が過去に経験していない塩分濃度であり、淡水性生物が減少するなどの生態系が変化する旨は伝えています。ただ、特定希少野生動植物であるカラスガイを含む淡水性生物の生息が困難になることなど丁寧な情報発信ができていなかった部分がなかったか点検し、湖山池情報プラザの各種イベントなどと連携して、湖山池のモニタリング結果など環境変化の状況を丁寧に情報発信していきます。

なお、カラスガイの移植に関しては、湖山池水質予測に係る生態系に関する検討委員会の委員の科学的助言により行ったものです。

8) 山陰海岸ジオパークの世界ジオパーク再認定への影響

(回答)

ジオパーク活動では、大地の遺産の「保護」と「活用」を共存させながら地域の持続的な経済発展を目指しています。平成 26 年度に予定されている世界ジオパークの再審査では、エリアでの保護保全、地域の産業や観光、教育などへの活用の実績が問われるものです。

湖山池においては、かつての恵み豊かで親しみのもてる池を取り戻すため、市民の方々のご意見を聞きながら「湖山池将来ビジョン」を策定し、「良好な水質」、「豊かな生態系」、「暮らしに息づく池」の3つの姿を目指すこととしており、ジオパークの理念にのっとりた方策だと考えています。今後も、ジオパークのテーマに沿った活動の支援として、湖山池情報プラザを拠点とした自然観察会等の環境教育イベントの展開をはじめ、池の歴史・文化を活かした観光や産業振興に努めることとしています。

9) 湖山池の自然について、今後、教育・文化面での活用ができない

(回答)

湖山池の汽水湖化は、劣化しつつあった自然環境を再生し、それによるアオコやヒシの悪臭防止や景観改善及び漁業資源の維持増殖といった県民生活の安定等を図ることとして総合的に判断し決定されたものであります。

なお、湖山池の周辺ではカラスガイの生息が確認されているところですので引き続き、他の公益との調整や、地域住民、有識者及び行政機関等の多くの関係者のコンセンサスを得た上で自然環境の保全に取り組んでいくとともに、地域住民の方々を中心に組織する湖山池将来ビジョン推進委員会で活用方策についても議論していくことを考えています。